

## 世界遺産追加登録決定へあと一歩!



2016年1月に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の県内22地点における追加登録をユネスコに申請。その結果、その諮問機関であるICOMOSから「承認」勧告があり、同年7月にトルコで開かれた第40回ユネスコ世界遺産委員会で、追加登録が決議される予定であった。しかし、開催地の治安問題により審議は行われず、同年10月にユネスコ本部(フランス)で行われる臨時会合において改めて審議されることとなった。追加登録が決定された場合、面積は11.1ヘクタール増え、参詣道は40.1キロ延長されるとともに、橋本市、上富田町、串本町が新たに登録資産を保有することになる。追加登録予定地点は以下の通り。

### 【追加登録予定地点】

- 熊野参詣道 中辺路**  
 ・北郡越・長尾坂・潮見峠越・赤木越・小獅子峠  
 ・かけぬけ道・八上王子跡・稲葉根王子跡・阿須賀王子跡
- 熊野参詣道 大辺路**  
 ・富田坂・タオの峠・新田平見道・富山平見道・飛渡谷道  
 ・清水峠・二河峠・駿田峠・關難神社
- 高野参詣道**  
 ・三谷坂(丹生酒殿神社含む)・京大坂道不動坂  
 ・黒河道・女人道

## 高野・熊野特区通訳案内士



通常、有償で通訳ガイドを行うには、国の通訳案内士試験に合格しなければならないが、外国人観光客にも気軽に利用してもらえるようにと特区制度を活用し、地域を限定して活動する「高野・熊野特区通訳案内士制度」を全国に先駆けて創設。高野・熊野地域を案内する際に必要な語学力と、文化的背景や深い歴史を正しく伝えるための知識について、研修・口述試験を独自で実施。今後さらに増加が予想される外国人観光客に対して、高野・熊野の魅力を観光客の視点に立って説明する。



### 【大辺路刈り開き隊】

隊の発足は2003年。現在34人のメンバーがそれぞれの地域に分かれ、月に一度の個別の活動と合同で作業を行う。数十メートル続く苔むした石畳は、ところどころ崩れていたが、それも石をはめ込み復旧した。隊の初期メンバーのみなさんと右から二番目が隊長の上野さん。

撮影：熊野参詣道大辺路・新田平見道



①串本町役場に保管されている串本町和深近くの「新田平見道」を示す明治時代の古地図。②草刈り機の先が指す所まで土砂に埋もれていたと語る刈り開き隊の生みの親でもある岩本さん。



③道を歩いていて海が見えるのが特徴の大辺路。通り抜ける海風が心地いい。④ひっそりと佇む地藏様。手向けられた花が地域の信仰を伝える。

### 【追加登録予定地点マップ】



# 世界が憧れる世界遺産を見守る

## 【紀伊山地の霊場と参詣道】

千年以上も昔から信仰の対象であった聖地・熊野三山と高野山。そしてそれらを結ぶ巡礼の道々。その神秘的な風景や精神が特に欧米の人々に受け入れられ、今では日本だけでなく外国からも多くの旅行者が訪れる世界の聖地となった。しかしこの世界遺産がどんなに素晴らしくとも、悠久の時の流れと自然の前では、人々の活動なくして永遠には存在し続けられない。

埋もれた熊野古道探しと聞けば浪漫溢れる冒険譚に聞こえる。しかしその活動は過酷を極めた。中腰になり草を刈りながら山道を登る。道が途切れると探し直した。個人所有の土地に入る事もあり、地域の方々の協力と理解なくして活動は成り立たなかったという。「漠然とした古道の位置は言い伝えなどから推測できたのですが、正確な場所は誰も知りませんでした」と大辺路刈り開き隊長上野「夫さん」。「30センチ程度の土砂が古道を覆い、倒木が行き先を塞いでいました。それらを取り除き、ようやく石畳の全容を見た時は感動しました」と同隊の作業を統

括する岩本立彦さんは笑顔をのぞかせる。しかし実際にこの道が大辺路として世界遺産に追加申請されるまで10年以上の歳月が必要だった。「この道が世界遺産に登録されてもやることに変わりはありません。多くの人に古道の情緒を伝え、安心して歩けるように草を刈り補修するだけです」。発見し、登録されたとしても隊の活動が終わる訳ではない。今後世界から注目されているこの至宝を見守り、その価値を次世代に伝える大いなる意義が待っている。

Reason of Wakayama

### 【紀伊山地の霊場と参詣道とは】

三つの霊場とそこに至る参詣道からなる和歌山県・奈良県・三重県にまたがる2004年に登録された世界遺産。多くの人がそれぞれの思いをもって訪れており、最近では特に欧米からの旅行者が増えているという。  
<http://www.wakayama-kanko.or.jp/worldheritage/index.html>